

## ブレーキシステムのエア抜き

### △注意:

ブレーキラインにエアが混入したままABSの減圧動作点検を行うと、油圧回路(HU)内部にエアが入るため、動作点検を行う前に必ずブレーキシステムのエア抜きを行うこと。

ブレーキパイプやホースを外したときには、外したパイプ又はホースのラインの両端のエア抜きをしなければならない。

### アドバイス:

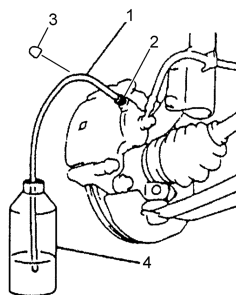
- ブレーキシステムのエア抜き作業は左後ブレーキ → 右前ブレーキ → 右後ブレーキ → 左前ブレーキの順で行う。
- ブレーキシステムのエア抜き中は、リザーバタンク内のブレーキフルード量を確認しながら、常に半分以上に保つようにする。

- 1) ブレーキマスタシリンダリザーバにブレーキフルードを補充する。

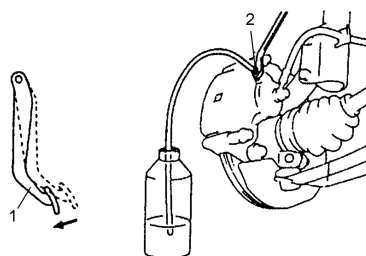
#### 指定材料

: ブレーキ液 99000-23060 (スズキブレーキフルードDOT3, 1L)

- 2) フリーダプラグキャップ (3) を外し、ビニールチューブ (1) の一端をフリーダプラグ (2) に取り付け、もう一端を容器 (4) に入れる。



- 3) ブレーキペダル (1) を数回踏み込み、踏み込んだままフリーダプラグ (2) を約半回転緩める。
- 4) 液圧がかかからなくなったらフリーダプラグを締め付ける。
- 5) ブレーキパイプ内にエアの混入がなくなるまで3) ~ 4) を繰り返す。

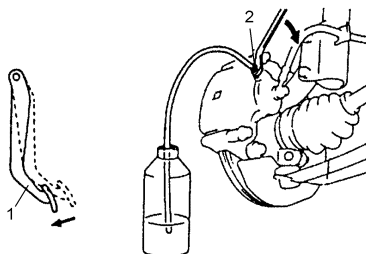


- 6) ブレーキパイプ内にエアがなくなったら、ブレーキペダル (1) を踏み込んだままフリーダプラグ (2) を規定トルクで締め付ける。

#### 締め付トルク

フロントブレーキフリーダプラグ : 8.3 N・m

リアブレーキフリーダプラグ : 8.0 N・m



- 7) ブレーキペダルの踏み応えを点検し、エアの混入感がある場合は再度ブレーキシステムのエア抜きを行う。
- 8) フリーダプラグキャップを取り付ける。
- 9) ブレーキシステムのエア抜き作業完了後、ブレーキラインに液圧をかけた状態で、ブレーキフルードの漏れがないことを確認する。
- 10) ブレーキフルードをブレーキマスタシリンダリザーバのMAXラインまで補充する。